

平均台

著者・発行者
かぶや亭坊楽◎

『月刊いしい平均』増刊第15号

203

（小冊子『平均台』からの通しナンバー）

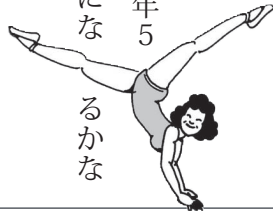
甲「それ行け、タカ！いいぞ、その調子」

乙「気合い十分はいいが、それじゃあ高安だか貴景勝だか分らんぞ。どっちを応援してる？」

甲「いやあ両方好きで弱っちよる。今日は直接対決だから『タカ、タカ』で、双方応援だ」

204

兄「いよいよ、改元だ。2019年5月からの元号がどんな漢字・発音になるかなあ」



弟「M、T、S、Hは避けるが、Kあたりが登場するかもね」

兄「確かに慶應まで遡っての配慮は不要だね。以前Kは危険、暗い・汚いなんて嫌なイメージだったが、今じゃ4K8K放送などで時代の先端ものだ」

二人「軽々に流言蜚語が流れる事など無いよう

願って置こう」

205

A「言葉は、時代と共に色々な意味に移り変わるものだが、最近特に感じてるのが、『大丈夫』だな」

B「具体的には、どういうところ？」

A「元の意味から転じて、そんな使い方もあるのかというのが…。コンビニで弁当を買った客に店員が『お箸お付けしましょうか』。客が『大丈夫です』。こちとらが古いのか、要る、要らぬのどっち

か分からない。この場合どうやら『ノーサンキュー』らしい。一方、肯定の意思表示のケースも。店員『レシート、品物と一緒に袋に入れます』客『大丈夫よ』このほうは、従来の我々の使用法に近い

だろう」

B「なるほど。次に私が常々感じてる事を喋ろうか」

206

B『すごい！』なんだよ。何かに感動したり、尊敬の念を持ったりした時に、美しい・素晴らしい・おいしいなどの前に『すごい』を付けるんじゃないかと、『すごい』の一語で済ませちゃう。とても便利だから多くの人が頻繁に使っているのだが、

感情や主張の表現にはいろんな語彙があるのだから、それらを適切に使うほうが話の中身が豊かになるんじゃないかなあ」

A「そうだね。だが、みんな忙しい世の中で、とかく短くしよう・縮めようという傾向が強いから中々変らないかも…。これも省力化かね」

207

よく、話が見える見えねえてなことを言いますが、或る夫婦の或る日の出来事。

妻「あなたー、今日は『洗濯機』お願い…」

夫「よっしゃ、分かった」

―後刻の成行き―

妻「何これ、どしたんだい？」

夫「フライドチキンよ。『ケンタッキー』頼んだだろ」

208

母親「ゲームセンター、ワンダーランド行きもいけど、事故には気を付けなさいよ」

言葉遊び好きの娘「入る前から店頭で転倒しないようにするわよ」

母「あまり長時間は駄目、早く帰ってらっしゃい」

娘「ナイター照明の点灯より前にテントから出ておてんとさまが見えてるうちに戻るよ」